

みんなのふるさとにほれ話 44

『ラジオ少国民』と童謡「たきび」

毎年十二月上旬の週末に、旭が丘中央公園で行われている「たきび祭」は、異聖歌が作詩した童謡「たきび」にちなんだお祭りのです。今年は15回目を迎えるはずでしたが、新型コロナウイルス流行のため、残念ながら中止となりました。

「たきび祭」が、この時期に行われるのは、童謡「たきび」が、日本放送協会のラジオの幼児のための番組で、昭和十六年（1941）十二月に初めて放送されたことによるものです。

当時、日本放送協会が発行していた子供向けのラジオテキストで『包装と文化ラジオ少国民』というA5版の雑誌があります。今ではほとんど目にするに出来ない雑誌ですが、昭和十六年十二月号（十一月二十五日発行）に、童謡「たきび」の詩と楽譜（渡辺茂作曲）が掲載されています。童謡「たきび」が世の中に出た、最初のものと言っていますと思います。

目次によると、放送には少国民の時間と幼児の時間があり、「たきび」は、幼児の時間「ウタノオケイロ」という番組で、十二月九・十・十一日に放送される予定だったことがわかります。指導は、中村淑子（とこと）とこと、藤原歌劇団でも活躍していた女性歌手でした。おそろしくの人が「たきび」をうたったのでしよう。ちなみに、十二日には、「ハナシアヒ」という番組が組まれていて、「杉並」ドモ会「の子供たちが出演して、「タキビ」ラウンデ、タキビノ唄ヲ唄デナガラミンナデハナシアヒライタシマス」という予告が書かれています。

すでにこの存じの方も多いと思いますが、童謡「たきび」の放送は、十二月八日の日米開戦の影響で十日までしか放送されなかったので、残念ながら十一日と十二日の「ハナシアヒ」の放送は、ありませんでした。

この雑誌には、読者の投稿欄があり、童謡の選者を異聖歌が務めていたことがわかりました。昭和十五年に勤めていた出版社アルスを退社して、児童文学者として自立した生活を始めていた聖歌は、『ラジオ少国民』の発行にも深くかかわっていたようで、別の号には、違う作品も掲載されていました。

